2024年7月1日
LINE通信

彦星が織姫に逢いにゆくために天の川を漕ぎ渡る舟の舵(梶)ではないが、その梶におりる露のように、私はもう幾秋、梶の葉に書きつづけたことでしょうか。あなたをお慕いする手紙を。

庶民の間では笹竹がメインの植物であっても、貴族の間では**「梶」**の葉を使っていたということをご存知でしょうか？

七夕が「笹の節句」となったのは割と最近のお話だそうで、七夕に活躍していた植物は本来「梶の葉」。**七夕は「梶の節句」**なのですね。
梶の葉の特徴として、表面に生えた繊毛のおかげか「墨のノリが良い」ということがあります。
このことから梶の葉に和歌を書くという風習が生まれました。
願い事をささげるために使われたのが「梶」の葉なのです。
梶の葉に願い事をしたため、それを水を張った「角盥（つのだらい）」というタライに浮かべることで願いを天に届けるというのが、**乞巧奠**（きっこうでん）での慣わしとなっています。
※乞巧奠とは、**牽牛・織女の２星に裁縫などの技芸が巧みになることを乞い願って、物をお供えする奠（まつり）**という意味。

ジョブカフェさくら